



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ

2024～2025 年度 高山中央 RC 会長テーマ

美しい調和 「beautiful harmony」



◆会長 堀口 裕之 ◆幹事 高橋 厚生 ◆会報委員長 中屋 出 ◆会報担当 渡辺 修治

創立 1991 年 5 月 20 日

<出席報告>

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

	会員数	出席会員	出席数	Make-up	出席率
本日 1369 回	53 名	53 名	43 名	—	81.13%
前々回 1367 回	53 名	53 名	43 名	2 名	84.91%

●点 鐘

●ロータリーソング

我らの生業

●高山中央ロータリークラブ職業倫理基準

●ゲストおよびビジターの紹介

国際ロータリー第 2630 地区

濃飛グループガバナー補佐

岡田 賛三 様 (高山西 RC)

●会長の時間

会長 堀口 裕之

本日は二回目のガバナー補佐訪問です。岡田濃飛グループガバナー補佐様、卓話及び例会後のクラブ協議会までよろしくお願いいたします。



さて先週 22 日木曜日に幹事代理の熊崎さんと青少年奉仕/インターアクト委員会委員長の小出さんとの三人で益田清風高校へお邪魔してまいりました。訪問の目的は下呂 RC との益田清風高校インターアクトクラブ共同スポンサーとしての協力金をお渡しすることでした。間違いなくお渡ししてまいりましたのでご報告申し上げます。

先週の例会において高校生団体 MAP06 の皆様から卓話いただきました。すばらしい高校生の皆様でしたよね。自身の将来のみならず地域全体の高校生のことを考えて行動されている姿に大変感動をいたしました。

感動には二種類あると言われていています。ひとつは予定調和による感動です。簡単に言えば水戸黄門の番組における「この紋所が目に入らぬか」のソレです。もう一つは期待を上回る感動です。今回の高校生のケースはこれにあたると思います。私は会長として感動あふれる高山中央ロータリークラブにしたいと考えています。中でも期待を上回る感動も大切にしたいのですが、クラブ運営を任された一人として予定調和の感動に力を注ぎたいと

思います。ロータリーの例会に参加すれば必ず感動できる。そんなクラブ運営を目指し本日のクラブ協議会に臨みたいと思いますので岡田ガバナー補佐よろしくお願いたします。

●幹事報告

副幹事 井ノ下 雄志

<会報>

・高山 RC



●国際ロータリー第 2630 地区

濃飛グループガバナー補佐

岡田 賛三 様 (高山西 RC)

皆様、こんにちは、今回も参加をさせていただいて、本当にこの中央ロータリーの熱意を感じます。これはやはり世代の会長さんが営々とこの中央ロータリーを指導され、その実績がこのクラブの何かロータリーらしさというようなものを醸し出しているのかな、というふうに思います。私も特に何かを申し上げるようなことはとてもないなと思い、大変緊張しながら、どうしようかと考えておりましたが、会長のお話は大変心に残りました。予定調和の感動。将来を超えた感動。しかしこの中央ロータリーは予定調和の感動を生かす、こういう思いというのはやはり継続していかないといけないな、そんなふうに大変尊敬をさせていただきました。また 2 回もガバナーをされた



あなたのニコニコ発表は大変楽しくて、このクラブは本当になごやかですね。今回の会長の方針である「ビューティフルハーモニー」といいますか、それが何か道につながっている、そんな感じがいたしました。今日、こちらに来まして、会報の方から今日原稿をできれば頂きたいと言われて、ドキッとしました。私こういったところで原稿を書いたことはないんです。いつも出まかせ、しかし会報の方にご迷惑をかけるようになったという気がしております。ロータリーに加えさせていただきましてから、前も話したかもしれませんが、43年目になるんですね。それまで私は何をしたかと言うと、そこにいるだけみたいで、ロータリーによく残ったとつくづく思わされております。この43年何回か講習を受けたんですけども、地区委員の方、そして同じAGの方々が非常に真剣に取り組んでおられるんですね。そんなところにそこまでロータリーって価値があるのか。私は本当に何かしたいとか、そんな思いでいたわけではないですけども、こうしてAGに行かせていただいて、各クラブを回らせていただきますと、いやーこんなことって言ったらいかなかなと、いろんな方々はそれぞれのクラブの特徴を発信しながらやられています。そしてその価値を感じ、幹部の方々が本当に真剣に取り組んでおられます。その中にいて私も実は30年近く前に会長をやったんですけども、そんなに思い出がないんですね。こんな私が、高山西ロータリーという非常に優雅な友情豊かな、そういうところでおらせてもらえた、というような思いをして、高山西ロータリーには感謝をしております。私がロータリーに入ったのは、まだ若い37歳の頃なんですけれどもその前に青年会議所というのに入っていて、なかなか当時の青年会議所は上からの願いがきつく、イエスと喜んでくれたと言えるような状況ではなかったし、私自身も新事業を始めて大変忙しい思いをしておりましたので、これがとてもこのクラブに入っている皆さんに迷惑をかけるばかりだなということで、中途半端になってしまっていたんですね。私の本当に尊敬する経営者である山本善一郎さんという方からも、色々な事を教えて頂いていたんですが、お前もあまり世間と付き合わずにいるようだから、皆さんと付き合った方がいいんだよ、と言う様な事で進められました。それでじゃあ、ロータリーとは一体何やろうかと聞きましたが、ロータリーというのは大人のクラブだから、誰も指示しないし、自分の思いで自分の立場で参加すればいいんだよ、と言われ、それならいいかなと思いついて入りました。そして、ロータリーがなぜできたのかという話の中で、百何年前に正義感の強い方が、正義を育む人とやりたいということで、そういう人たちとの集まりを始めたんだということなんです。

当時は本当にギャングの世界、悲しい世界恐慌の世界、そういう恐ろしい世界だったんですけども、そういう中で本当に正義を育む。そういう思いを持ってポールハリスがロータリーを始めたんだと、そういう正義感を持って自分の仕事を全うする。そういう志を持った人が、この会を進めていくということだと思って始めたんですね。そんな話を聞いて私も事業として社会に貢献したいという思いが大変強かったですから、グループとか何かをするよりも、まずは自分が社会に貢献すること、それが大事なのかな。そんな思いでまだ若かったですけど、30代の頃、ロータリーに入らせて頂きました。しかし、入ってから出席ができなくて迷惑をかけておりました。当時は出席率100%というのが義務だったんですね。それが必須の要素なんです。たまに出ると、今日は久しぶりに100%です。岡田君が来てますと言われてましてこんな感じで大変迷惑かけてたなと思ひまして、それ以降は他のクラブでメイキャップ。メイキャップすれば100%だということで、当時はこの高山中央がなかったものから高山クラブの方へ行ったり、また岐阜や名古屋に出張する事が多かったので、岐阜や名古屋のクラブに出させていただきます。そんなことでいろんなクラブを体験しました。高山西クラブにはあまり貢献できなかったが、自分自身にとってはやっぱりいろんな糧をいただいてきたなというふうに思いました。そういう意味でこのロータリーというのはいろんな参加の仕方ができるんだなと思います。今ロータリーでもダイバーシティクリティカルグループのような言葉がいろいろありますけども、いろんな多様な価値観を持った人たちが公平に扱われて、それを包括していくのがロータリークラブだよ、ということだと思っております。女性を言うとか、もちろんLGBTとかそれなどいろいろあるわけですけども、それだけが多様性だということに何ら多様性がある価値観を持ってそれぞれの女性を捉えていくということだと思ひます。そういったところを、やはりみんなで豪華すぎずに、相手を認めながら、そして私、自分がやっていることを認めていただければ、そして見通しのいい「ビューティフルハーモニー」それがクラブが目指すべきものなのかなというふうに思ひます。この地区の方針は「地区にインパクトを」というのを言っておりますけども全部まともにやっていたら、それは大変無理なことだと思ひますね。ですから、今年はこのほうもしっかりやろうというようなことで、進めていくことも大事な、というふうに思ひます。それから今思ひますと先ほども言ひましたように、いろんなところで戦争が起きている、そういう現実を我々はやはり見ていかなきゃいけないのかな、というふうに思ひますね。僕たちは政治的なこ

ととか宗教的なことはタブーだ、と言われておりますけども、実際社会で生活していく上で政治的なことというのは本当に身近なことなわけですよ。それをタブーにしているというのは、私は違うかな、というような思いいたします。ここには政治家の先生もいらっしゃるんで、そういう話もできるのかなと思います。ロータリーが目指すところは本当は、平和と信仰にある。その平和と信仰を目指すために我々がやるべきことは、地域社会、そして隣人、仲間とまずは輪を広めていくことだろうなとそういうふう考えられるようになって思います。30分もいただいて何を話そうかと、ちょっと個人的なことですけども、一言おまけと言いつけをしないといけないことがあります。私は、自分の生活信条を口から出まかせ、というのが私の一つの信条で、もう一つはいい加減、それから行き当たりばったり、そしてその日暮らし、とこの四つが私の生き方といいますか、これしかできないものなんですけれども、いい加減というと、本当にお前、いい加減なやつやなってよく言われますよね。私はときどきいい加減にしろって言われますね。いい加減にしろって言われたらいい加減なやつやなってなるんです。そのいい加減の意味を少し考えてみましょう。いい加減というのは、良いと加えることについてバランスをとっているということなんです。やはり人間というのは、私なんかはあっち向いたらあっちへ走ってしまうので、ちょっといい加減にしてこっちへ戻ってこようというようなこと。やはりバランス感覚が生き方の学ぶ前の意思なんじゃないかと、どうせいい加減なやつといってもらっているんだから、このいい加減を日暮らしの一つの信条にしる、というようなことを考えたわけです。先ほど予定調和という話がありましたけど、文章を書くときどうしても予定調和の文章になってしまうんですね。そうすると、予定調和の自分というのは何か隠れているんですよ。そのカッコつけとかいろんな意味で、でも本当の自分はちょっとしかないんじゃないかという思いがやっぱり出てきます。ですから、できるだけ骨で生きていきたいなど、本音で生きると迷惑もかかりますよね。迷惑かけたらそこで終わり、それも一つの生き方じゃないかなと、理由は何かという口から出るように任せる。それはそのときその場で思ったことを口にする、ということ。それはまさしくそのときの自分の本音なんじゃないかなとそんなふうに思って口から出るように任せるというものを言いますと、皆さん大抵ひいてくれるんですけど、それも許されるのは今日までの私かな、とそんなふうに思ってこれからも口から出て任せる。そう言いながらもカッコつけるときもありますし、今日もちょっと緊張しているときにカッコつけるときとかもあるかもしれません。

できるだけ本音で生きていくと、それが間違っていたら必ず理由が出るから、そのときにまた学んでいく。とそうやって自分を修正しながらしていくのも、自分の成長を支える力の力なんですね。たまにも予定調和でいいカッコついちゃうと誰も批判をしません。批判もされないと人間というのは、お調子者になってきます。やはり批判をされ、そしてそこで考えることによって人間というのは成長できるのかな、と勝手に思っております。次の行き当たりばったりと言いますと、これも意外な話なんですけど、予定調和で出会う人との出会いと偶然ばったり出会って大きなインパクトをいただく人というのは大体後者だと思うんです。この人と出会ってこの人こうして行って、予定調和というふうに進めていった場合、とんでもないところでとんでもない人と出会って、そしてそれが大きな人生のきっかけになるということは大変だと思います。予定調和を狙ってもその通りには行かないのが夫婦だとは思いますが、できるだけ色んなところに顔を出したりして、そこで偶然ばったり出会った人と大きな出会いになってくれたこと、というのも、私の人生の中ではあったことです。そういう意味では、行き当たりばったりというものとても大事ではないかなと勝手に思っています。そして最後のその日暮らしというのは、過去は終わっちゃってます。未来はまだ来てません。生きてるのは今しかないんですね。今しか生きてないその今をどう生きるか、それがその日暮らしその日を大切に生きるということではないかなと思っています。それは過去を無視するということではないです。過去は学びだった。失敗もいっぱいしたけども色んな経験をしたけども、これはやっぱり学びだった。その学びを生かして明日に向かって明日を目指す。それをできるのは今しかない。今やらなければ明日は永遠に明日になってしまいますし、そういう意味でその日暮らし、その日を大事に生きるということを思ったわけです。といって、この4つは私全然あまりできてはいないんですけど、でも時々そういうふうに思うと、今が大事なんだ。行き当たりばつかりの出会い、これ大事だとか、時々そんなことを思い出しながら生きていくところです。最後の4つのテストというのはとても大事だと思うんですよ。でもこれって本当に難しいですよ。真実ってなんだろう。今はあらゆることが報道されていますけれども、それは一つの一面ではなくて、そのほかにあるものは全く我々には入ってきません。そういう意味で真実は裏も表も知ることの真実を知ることになるし。じゃあ、真実を生きるというのは裏も表もいかしていけるのかどうか。これをどうなのかなといういろいろ悩みはつきないですけども、しかしせめて自分のビジネスにおいても真実かどうか、

お客様のためになるかどうか、というところはやはり真剣に考えていかなければならないと思います。本当にみんなに公平は大変難しい部分もあるのかなと思います。この人とは好意と友情を深めたけど、あの人とは何の交流もなかったって事ありますよね。みんなのためになるかどうかってこのグループ、あるいは会社この家族にとってはいいけど、果たしてそれが普遍的にいいことなのかって考えた時にそうでないこともあるのかもしれない。世界の人たちはいろんな価値観を持っていますから、いろんな生活をしているわけですよ。そういったところで本当にみんなのためになるか、そのみんなとは一体誰なのかということも考えてみると何かこう安易に言えることではないかもしれません。ご清聴ありがとうございました。

<ニコニコ BOX>

本日はよろしくお願ひします。

濃飛グループガバナー補佐
岡田 賛三 様(高山西 RC)

本日は、濃飛グループ岡田ガバナー補佐のご来訪ありがとうございます。役員理事一同楽しみにしておりました。後ほどは卓話をよろしくお願ひ致します。 役員理事一同

濃飛グループガバナー補佐 岡田賛三様のご来訪を歓迎申し上げます。先月に続き2度目になります。毎日暑い中、本当にご苦勞様です。 平林 英一

皆様のお陰をもちまして、2023-24 年度もロータリー賞を無事に受賞する事が出来ました。ご協力、誠にありがとうございました。

岩本 正樹 長瀬 栄二郎

剣道七段を取ってから10年待たされて、8月10日に八段の審査に行ってきた。審査は2回の立会を見てもらい、もし合格すれば2次審査に進めます。2次審査に合格してさらに形の審査に合格して八段となります。この飛騨地域には1次審査合格者すら一人もいません。今回も1,000人以上の受審者がありましたが99%が不合格、私なんか受かるわけがありませんでした。 渡辺 修治

出席報告について長々と話をしてしまい反省。

松之木 映一